

「天にいます私たちの父よ」

マタイ6：9

堀田修一 22・6・12

「主の祈り」は、祈りの中で最も大切に、すべての内容を含む素晴らしい祈りです。それは、主が教えられた祈りだからです。礼拝、個人の祈り、集会で、心を込めて祈りましょう。そのためには、主の祈りの一つ一つのことばの意味を深く知る必要があります。本日から、何週かにかけて順番に説教させていただきます。

- I 祈りにおける最初の呼びかけは、非常に大切。人間関係でも、相手の方への呼びかけは、その人との関係を良く表しています。※証し。私個人と他の人への呼び方。神への呼びかけによって、神がどのようなお方であるか、私たちとどのような関係にあるお方かを自覚する助けとなる。また、正しい呼びかけはその後の祈りを大いに助ける。そのため、主の祈りの神への呼びかけの意味をはっきりと理解しておくこと、祈りの心が変わる。主が教えられた呼びかけは、「天にいます私たちの父よ」。この呼びかけにより、私たちは、神御自身の御前に立っている恵みを自覚し、神をまっすぐ見上げ、神がどのようなお方かをはっきり自覚して祈り始める。

- II 「天にいます」の意味。神が天と呼ばれる特定の領域にとどまっていることを意味しない。「天」とは、神の臨在されることを指す。神は、天も地もすべてを支配しておられるお方であることを告白している。また「天にいます」と祈ることは、特に地上の誤った父親像からの混乱を避けさせる役割がある。地上には完全な父親、母親はいない。神が父と呼ばれるとき、男性の父という事ではなく、完全な親であるという意味。神が父と子と聖霊と教えられるとき、母は、どこにおられますかという質問が生まれる。※カトリックとの聖書的な違い。その答えは、神が父と呼ばれるとき、その「父」の中に完全な父性と母性が含まれる→「母に慰められるように、わたし（主）はあなたがたを慰める」イザヤ66：13。つまり、神は偉大で完全な親（完全な父性と母性をお持ち）であるということ。「天にいます」とは、神本来の偉大さ（天地万物の創造者・全能・永遠・無限・不変・完全な義と愛の方）を示している。神は、偉大で、天にさえ納まらない方、天も天の天も神をお入れすることはできない。「天にいます」とは、人間のことばではとらえられない、神のはかりしれない栄光を意味している。それは、神の絶対的な栄光、超越的な偉大さ。さらにこの呼び方は、私たちの将来をも指し示す。「天にいます私たちの父よ」と呼びかけるとき、私たちは、自分の最終到達点が、御父がおられる天であることを告白している。旧約の聖徒たちと同様に、私たちも「さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれて」（ヘブル11：16）日々歩んでいる。私たちは、この地上においては旅人であり寄留者。しかし、「天の父よ」と呼びかけることにより、私たちも永遠の御国を目指していることを絶えず告白する主の祈り。この地上は、私たちの永遠の住まいではない。私たちの永遠の住まいは、「天の故郷」「神が設計し建設された」神の国。ヘブル11：10、16。

Ⅲ 「父よ」の意味。「天にいます」は神の偉大さ・全知全能・神のすべての支配を示す。「父よ」は、神の聖なる深い愛、暖かさ、私たちへの愛の関心、必要を満たして下さる方、愛する神の子とされた私たちを愛するゆえに苦しみや試練を通して訓練し育てて下さる方であることを示す。

1. 私たちを愛して私たちを養って下さる御父。主イエスは言われた。「空の鳥を見なさい。…あなたがたの父がこれを養っていてくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか」マタイ6：26。「何を食べるか、何を飲むか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。…あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます」6：31, 32。天の父は、私たちの必要をすでに知り、わたしたちの祈りに答えよう、すべての必要を満たそうと待っておられる方。「主は、あなたがたに恵みを与えようとして待ち、それゆえ、あわれみを与えようと立ち上がられる」イザヤ30：18。この確信こそ、私たちが祈りへと向かわせる。
2. また、父なる神は、すべてを支配し、すべてをご存知で、その無限の知恵により、私たちに最善を成して下さる。御父の許しなしに、何事も私たちの身に起きない。すべてに神の意味がある。「雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません。あなたがたの髪の毛さえも、すべて数えられています」マタイ10：29、30。これまでと今、私と皆さんに起こっていることは意味のない偶然のものはない。父なる神が意味を持って私たちの身に起こることを許し、計画し、神の方法で神の時に益として下さる。「どうして?」と思うことが多くある中でも、今、私たちの頭では理解できなくても、神を信頼するのが本当の信仰である。
3. 主を信じる時、私たちは「罪人のかしら」でありながら、神に愛される「神の子ども」となる。「この方（イエス様）受け入れた人々、すなわち、その名（主・救い主）を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった」Ⅰヨハネ1：12。御父（完全な義と愛の親）は、子育てに無責任ではない。「わが子よ。主の訓練を軽んじてはならない。主に叱られて気落ちしてはならない。主はその愛する者を訓練（苦しみや試練を通して鍛え）し、受け入れる（人格を受け入れ愛しておられる）すべての子（私たち）に、むち（私たちが自分を省み、深く反省し、神に立ち返らせる痛み）を加えられるのだから。」訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを（愛する大切な）子として扱っておられるのです。父が訓練しない子がいるでしょうか。ヘブル12：5-7。

Ⅳ 「わたしたちの父よ」の意味。私たちは、友人のお父さんに向かって、「私たちのお父さん」とは言わない。自分のお父さんではないから。この主の祈りで、「私たちの父よ」と祈るのは、天の父が、よそのお父さんではなく、私と私たちの本当の父だから。神と私たちの深い関係が明らかにされている。偉大で聖で深い愛の神は、私たちの神、私たちの本当の父である。私と私たちのことをいつも思い、私たちの必要を満たし、私たちを導いている御父。今、離れぎみの兄弟姉妹をも神は覚えておられる。祈り合いたい。お互いに御父の支えがあるように。この呼びかけほど、私たちクリスチャンにとり、素晴らしい恵みはない。ここには、神の恵みの約束がすべて凝縮されている。私たちは、天に父を持っているものすごく幸いな特権をいただいている子どもである恵みを感謝したい。その御父は、私たちを大切な一人子イエス様さえ十字

架にお与えになるほど心から愛しておられ、私たちも、その方を愛し、私たちは、試練の中でも、偉大で愛の御父を見上げて祈りましょう。偉大で愛の父なる神の臨在を覚えながら、地上での残りの生涯を全うし、やがて御国において三位一体の神と共に永遠に交わることとなります。それこそ、主イエスの十字架と復活と再臨の救いの恵みが私たちにもたらす恵みです。ハレルヤ！この主の祈りは、その恵みを知っているがゆえに、その恵みに支えられて祈ることができる祈りです。心を静めて祈るとき、偉大で愛の御父の御前に祈るのですから、「天にいますわたしたちの父よ」という心を込めた呼びかけで祈り始めましょう。私たちの天の父は、完全なお方であり、万物を無から創造された全知全能の神であり、ご自分のひとり子さえも惜しまれなかった愛のお方。私たちの御父としての愛と真実、全能なる創造者としての無限の力と豊かさを覚えて御聖霊の助けで祈るとき、落ち込みやすい私たちの祈りの心は、軽やかで心地よいものとされる。私たちが祝福を願う以上に、御父は私たちが祝福しようと待っておられる。「神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。私たちすべてのために、ご自分の御子をさえも惜しむことなく死に渡された神が、どうして、御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるのでしょうか」ローマ8：32

祈り：「主の祈り」を私たちに教えて下さり心から感謝します。本日は、「天にいます私たちの父よ」という呼びかけの深い意味を知りました。これからも、「主の祈り」を心を込め、大切に祈る者として下さい。